

越山若水

2021.4.13

石川啄木は教科書にも掲載され

た明治時代の歌人。歌集「一握の

砂」「悲しき玩具」が代表作で、

貧困と病気に苦しむ不遇の境涯で

詠んだ短歌の数々は、今も多くの

人に支持される▼「呼吸すれば、胸の中にて

鳴る音あり。床よりもさびしきその音！」。

文学者を目指し岩手県から上京した啄木。と

ころがなかなか芽が出ず、北海道などで職を

転々とする。1911(明治44)年2月に慢

性腹膜炎の手術を受け、4月には肺結核を患

い高熱が続いた▼その後、妻も肺カタルを発

病。翌12年に母親が肺結核で死亡し、啄木本

人も後を追うように弱冠26歳で永眠した。お

そらく一家で結核菌に感染したらしい。結核

は当時治療が困難な病気で、現在のBCGワ

クチンは21年にフランスで開発、日本への導

入は24年だった▼きのう新型コロナウイルス

のワクチン接種が全国で始まった。65歳以上

の高齢者が対象で、優先した医療従事者に次

ぐもの。県内の3市町では高齢者施設の入所

者と職員が接種を受けた。新型コロナは未解

明なことが多く、今も第4波の猛威がひたひ

たと迫っている▼ワクチン先行国の英国、米

国、イスラエルでは発症者や重症者を減らす

効果が確認されている。ウイルス対策の切り

札として、誰もが待ち望んでいる期待の星で

ある。ちなみにきょう13日は啄木の忌日。泉

下の歌人もワクチンに注目しているだろう。